札幌社保協 FAXニュース

２０１５年 １０月２６日(月)
社保協事務局　発行
TEL823-0867　Fax821-3701
E-mail:s-syaho@kin-ikyo.or.jp
http://www.sapporo-syahokyo.jp/

国保・介護・後期高齢者110番は10月29日(木)です

子ども医療費助成の無料化拡大は必要

全ての会派が拡充の必要性を強調

10/19新婦人札幌協議会が提出していた「子ども医療費の無料化を通院・入院とも所得制限、初診時一部負担金なく、中学校卒業まで拡充してください」の陳情審査が、市議会厚生委員会で行われました。

新婦人白石支部の伊勢谷さんが趣旨説明に立ち「保育園に通う6歳から2歳の3人の子どもがいて、上の2人はかぜをひくと喘息の症状でよく小児科を受診しています。夫も具合が悪く休業中で、生活も大変です。来年から小学校に行くと医療費がかかります。貯金を崩しながらの生活で、初診料も３人では1740円と厳しいものがあります。お財布の中身を気にせず受診できるようにしてください」と切実な実情を訴えました。

各議員の質疑では「段階的に拡大すべき」（自民党）、「少子化の中で子ども子育て支援は重要、財政の経過を見ながら検討すべき」（民主党）、「拡大していくべきと思う、いつまでどこまで広げるか対象を検討していく必要ある」（公明）、「低学年は病気にかかりやすい、財政の理由で子どもの病気を後回しにするべきでない、１年生までの拡大を２０１８年実施より早くできないのか」（共産党）、「財政的に厳しい中でも、子ども医療費助成を拡充していくことが重要」と、全ての議員が助成の拡充の必要性に触れていました。

市側は、「中学生まで拡大した場合48億円、初診料負担廃止で8億円、所得制限廃止で4億円がかかる。1年生の無料化実施は電算システムや全体の計画もあり、繰り上げ実施は難しい。子ども医療費助成拡大は市長の公約でもあり市民の声でもあると認識している」等の回答をしました。陳情は賛成多数で継続審議となりました。

保育料負担増「異議申立て」を提出（2回目）

札幌保育連は、10/23に保育料負担増に対する「異議申立て」書の2回目の提出を行いました。5人の父母と、土岐道保育連会長が子ども未来局に、申立書を26、抗議文を13人分渡しました。提出者の母親の一人は「我が家は2万円以上の負担増になり、食費を切り詰めるなど生活が大変です」と訴えました。

3回目　異議申立書提出（最終）
１１月９日（月）10:00～ 子ども未来局
大通バスセンタービル1号館（大通東1丁目）
午前9:50に1階ロビーへ集合です。

SOSとよひら相談会　退院後のくらし・医療・介護をどうしたらよいか

10/24の午後、豊平区社保協等による実行委員会主催の「SOSとよひら生活なんでも相談会」が、勤医協月寒ファミリークリニックで開催され、13人18件の相談がありました。弁護士、司法書士をはじめ、地区労連、守る会、勤医協月寒ファミリークリニック、勤医協在宅、民商、陽は昇る会など20人以上の相談員・要員が参加。

ある女性は、月7万円の年金でくらす友人が、10年以上自分の家で間借りしていたが、入院をすることになり、今後の生活や医療の継続、介護の体制など、どうしたら良いかと相談に来ました。今後、生活保護の申請等を検討することになりました。